

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：マームゆりかご かもい保育園	種別：地域型保育事業A型
代表者氏名：小山 哲司	定員（利用人数）：10名
所在地：〒226-0003 神奈川県横浜市緑区鴨居1-14-4 アヴォンリー鴨居101号室	
TEL：045-532-4415	ホームページ： https://marmuyurikago.com
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2018年04月01日	
経営法人・設置主体（法人名等）：特定非営利活動法人 マームゆりかご	
職員数	常勤職員：4名 非常勤職員：10名
専門職員	（専門職の名称）：名
	保育士：10名
施設・設備 の概要	（居室数）
	居室：保育室1部屋
	（設備等） 設備：厨房 設備：トイレ

③理念・基本方針

<保育の基本理念>

子どもの最善の利益を守り、一人ひとりを大切に、豊かでしなやかな心の成長と生涯にわたる生きる力の基礎を育みます。

<保育方針>

1. 未来を担う子どもたち一人ひとりの心を大切に、良質な水準かつ適切な内容の保育・教育の提供を行うことにより、きめ細やかで温かい保育を実践し、だれもが豊かな表情で、健やかに成長することを支援します。
2. 保育・教育の提供にあたっては、子ども・子育て支援法、その他の関係法令を遵守し、保育所保育指針に沿って行います。
3. 保護者や地域、まちとの信頼関係を構築していく保育を目指し、職員が一丸となって実践します。
4. 子どもが健康・安全・安定した生活ができる環境を整備し、自分らしさを発揮しながら活動できるよう保育の個別化・個性化を図ります。
5. 保護者等の相談や要望、意見、質問等には、速やかに回答し、説明責任を果たします。

<保育目標>

1. 子ども一人ひとりの心に寄り添い、丁寧できめ細やかな温かい保育をします。
2. 子どものやりたい気持ちを大切に、その活動を存分に保証する保育を目指します。

3. 子ども主体で遊びの中にある学びに着目し、旺盛な好奇心や集中力、自己を統制する力、自己肯定感など情緒をコントロールする力を育みます。
4. 職員や地域、まちとの信頼関係を構築し、子どもが健康で自分らしさを発揮できる安心・安全な環境を整えます。

④施設・事業所の特徴的な取組

<目指す子ども像>

マームゆりかご かもい保育園は、子どもたちが真ん中で、職員と保護者が共に力を合わせて次のような子ども像を目指します。

- 心身ともに健康でたくましい子
- 心豊かな子
- 優しく思いやりのある子
- 自ら遊べる子

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年06月20日（契約日） ～ 2023年02月05日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	初回（年度）

⑥総評

《マームゆりかご かもい保育園の概要》

●マームゆりかご かもい保育園（以下、本園という）は、JR横浜線鴨居駅から徒歩2分に位置しています。辺りは豊かな自然に溢れ、隣には広い公園があり、園の裏には鶴見川が流れ、河川敷に下りられるので、そこで四季折々の草花や昆虫に触れ、冬には都会では珍しい長い霜柱が立つ等、自然を満喫しながら子どもたちは過ごすことができます。豊かな自然を通して感性・情緒を育み、保育士と触れ合いながら散歩を楽しみ、のびのびと成長できる環境にあります。

●本園の運営母体は特定非営利活動法人マームゆりかご（以下、法人という）です。本園は、厚生労働省の「子ども・子育て支援新制度」の中の地域型保育事業の一環として平成30年4月に、0～2歳児を対象にした地域型保育事業A型をスタートしました。定員は10名（0歳児3名、1歳児3名、2歳児4名）とし、現在5年目です。法人は、令和2年4月1日に開園した「マームゆりかご ながつた保育園」も運営しています。

●園舎は、マンションの1階部分を活用しており、保育室は床暖房を完備し、安全・衛生的な環境を整えています。マンションの構造上、保育室内に配管パイプが存在し、そのパイプを園のシンボルとして、『シンボルツリーすくすくのき』と称し、四季折々に装飾を施し、子どもたちと一緒に楽しむ工夫に発想転換を図り、保育に「彩り」を添えています。テラスでは温水あそびが楽しめ、広いウッドデッキが施され、道路側の壁の内側には磁石が付く大きなホワイトボードを設け、磁石付き玩具を張り付けて遊んだり、マーカーでお絵描きをしたり等、工夫しています。保育室では、子どもの遊ぶ空間を優先し、棚は上方に作り付けにして床平面を広く確保しています。また、部屋の壁面に磁気の入った壁紙が張られ、磁石付き玩具で遊べる等、床と壁で遊べる工夫が成されており、衛生的で保育環境の一助になっています。室内の一部にはボルダリングウォールが設置されており、将来的に活用が期待されます。

●園では、子どもたちが毎日を自分らしく過ごせるよう援助し、人間力を鍛えられるような関わりに重点を置いています。また、家庭の雰囲気に近い空間作りにより、子ども

たちが安心を得られるよう配慮し、豊かな人間関係を形成できるよう保育に当たっています。さらに、子どもがやりたいと思うことを実現できるよう環境を整備し、日々心に残る体験を提供できるよう努め、マーム農園での体験保育も大切にしています。

◇特長や今後期待される点

1. 【子どもの「しなやかな心」の育成】

本園の理念の中には、「しなやかな心」という文言が用いられています。形容詞「しなやかな」の意に対して、園の「想い」が反映されています。近年、自分の考えが通らないと心が折れて落ち込み、引きこもりや悩む子どもが多く見られる中、水辺の葦のように、風に吹かれる柳の葉のように、AがダメならBもCもあり、幅広い選択肢や視野を持つことができるようになって欲しいという思いが「しなやかな心」として表現されています。取組みとして、異年齢の子どもたちが兄弟姉妹のように共に過ごす中で、相手の存在に気付き、年下の子を愛でたり、自分とは違う思いに触れたりしながら育ち合う環境を大切に、様々に一つひとつを積み重ねながら「しなやかな」対応ができるよう援助しています。家庭的で目の行き届いた保育を基に育まれています。

2. 【マームゆりかご かもい保育園の「目指す子ども像」】

本園の保育では、常に子どもたちを真ん中に、職員と保護者が共に力を合わせて保育に当たっています。目指す子ども像として、①「心身ともに健康でたくましい子」、②「心豊かな子」、③「優しく思いやりのある子」、④「自ら遊べる子」を掲げています。「目指す子ども像」達成に向けて、正規職員保育士3名（含む保育責任者）と協力的な非常勤職員7名がベクトルを1つにして園全体で取り組んでいます。本園は、子ども10人に保育士10人の1対1体制であり、非常勤職員を常勤換算すると3人相当となり、10対6にて非常に手厚い保育の体制が整備されています。継続してこの体制の中で「目指す子ども像」への実現に期待されます。

3. 【地域型保育事業認可A型の認知と周知】

課題の1つとして、「地域型保育事業認可A型」の認知と周知が挙げられます。近年、認定こども園や1日預かりを行う幼稚園等もある中、さらに「地域型保育事業認可A型」の認知度を含め、周知・浸透が求められます。「地域型保育事業認可A型」は子ども一人ひとりを尊重した保育であり、特に、優位性のある小規模保育園として個別的保育の選択ができる等、認知度が上がることが期待されます。例えば、区役所等を活用し、地域の小規模保育事業者の会合等で検討を図り、地域型保育事業認可A型の説明を行う機会を設ける等、また、内部的に説明ができる人材を育成していく等、契機となる活動を模索しながら努力を続けて行かれることを期待しています。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名：マームゆりかご かもい保育園

《第三者評価を受審した感想・自己評価での取り組みの感想》

開園5年目の初受審は、全職員に確かな振り返りを通して評価の重要性に自ら気付くことができた貴重な経験でした。設問の言葉や用語、設問自体に戸惑いを感じながらも、時折話題になっていましたことは、そこに職員の業務啓発を認めました。

さて、本園は、新型コロナウイルス感染症の急激な蔓延や異常気象、戦争に代表される社会経済情勢の変化に伴い複雑に多様化する保護者の保育ニーズに的確に対応していく為には、小規模保育園の強みを活かしてこれまで以上に職員一人ひとりの保育力を最大

限に発揮し、様々な現代的課題へ積極的に取組もうとする意欲こそが最重要です。

ベテランも含め全職員が初めての受審であったことに時間はかかりましたが、保育支援の改善や福祉サービスの向上には、開かれた保育の指導と評価の一体化が必要であり、ベースには確固たる本園の保育理念が貫かれているのだということが明確になりました。

職員は、キャリアパスに位置付く自らが果たすべき役割をしっかりと認識し、専門的知識の習得や保育実践力の向上に努め、個の強みを表出させながらプライドと働き甲斐を実感して業務遂行ができる取組として、園内重点研修をはじめとする人材育成の整備実践が急務であると確認しました。

本園では、職員一人ひとりの意欲面を大切にすることから、全職員に自己観察書の作成を義務付けて、個による目標管理手法を用いて実施していますが、制度活用に課題がありました。法人・園長と職員が、共通認識をもって業務に取組み、面談等で意思の疎通を図り、職務を通じて発揮された意欲や能力・実績を公正かつ客観的に評価していくという仕組みを活かし切れていなかった点です。これを活用するということは、職員の将来を見据えながら、強みは伸ばし、弱みは補って人材を育成し、能力開発・能力活用につなげることです。これができてこそ、園目標の共有化が進み、より円滑で連携の取れた業務遂行が可能となるはずで

本園は、第三者評価の受審をきっかけとして、全職員の意欲と能力を最大限に引き出し、夢や希望に積極果敢に挑戦する人材を育成し活用することで、手厚くきめ細やかな愛情保育サービスを実現させると共に、職場環境の改善や職員の意識改革をさらに推進し、園児を真ん中とした地域に根差した保育園であることを忘れずに邁進する所存です。

《評価後取組んだ事として》

1. すくすくのき（重要事項）
保育の理念・保育指針・保育目標のイメージ図化
2. 療育・児相のリストアップ
3. 倫理綱領確認
4. 子どものプライバシー・ボランティアの受入れ
5. 期待する職員像の原案

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり